

藤と桜が美しい“にやかしのまち” — 連携と協働を生かした地域の拠点づくり —

西藤島公民館

1 西藤島地区の概要

福井市の北西部に位置し、日野川・足羽川・九頭竜川に囲まれており、昔ながらの集落と新興住宅が融合する地区である。沿道には県立武道館をはじめ、日野川浄化センター、中消防署西分署、福井市防災ステーション、福井ホースパークなどの公共施設が建ち並んでいる。

春の日野川堤防にはソメイヨシノや枝垂れ桜が咲き誇り、美しい景観を眺めることができる。また、年間を通じて、堤防沿いの「ふれあい遊歩道」はジョギングやウォーキング、サイクリングを楽しむ人たちが賑わっている。足羽川の桜並木にならぶ福井市の名勝地とも言える。



西藤島地区は永年にわたり、ふるさとおこし事業に取り組んできた。そのキャッチフレーズである“藤と桜の里 西藤島”のシンボルマーク

は公募により作製されたものである。地区内全ての自治会には“藤と桜”が植えられ、住民の手で大切に育てられてい



る。“藤”は、西藤島の地名にちなんで、約30年前から植え始めた。それぞれの花の時期に、地区内が花いっぱいになることを夢見て取り組んだ事業である。

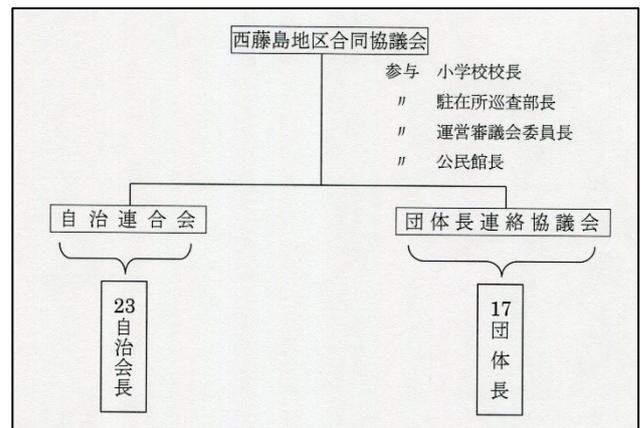
またこの地は、幾度となく水害に見舞われた地域である。その土地が、明治30年頃の杉田定一氏による治水事業で生まれ変わった。彼は莫大な私財をなげうって、九頭竜川と日野川の治水工事に尽力し、川沿いの地域を水害から救った。住民にとってはこの上ない喜びであり、感謝の意を表しその歴史を後世に伝えるために、「杉田定一治水謝恩碑」と「治水百周年記念碑」が公民館近くに建立されている。

平成29年9月1日現在の世帯数は1,698戸、人口は4,838人である。

2 特色ある組織“西藤島地区合同協議会”

本地区には「合同協議会」という組織があり、地区の最高議決機関となっている。地区の五大事業である「こんにちはファミリーウォーク」「区民体育祭」「にやかし祭り」「敬老会」「文化祭」の前には必ず開催し、実施要項を検討して徹底を図っていく大切な機関となっている。これらの行事の他に、地区に共通する諸問題を協議したり、調査研究したりする機関でもある。

他の地区には見られない特色ある組織であり、各自治会や各団体、地区内の小中学校など、地区全体の一体感と連帯意識を高める上でも貴重な協議会として機能している。



3 「こんにちはファミリーウォーク」の実施

毎年4月に桜の開花時期に合わせて、地区民を中心にしたファミリーウォークを開催している。地区の史



【横断幕を掲げ、参加者全員で記念撮影】

跡や名所を訪れ、それらを詳しく知り、地域愛を深めることを目的としている。さらに参加者相互の親睦と健康増進を図ることもねらっている。

例年 200 名程度が参加し、完歩賞を目指して約 8km の行程を歩く。その道中では、自主グループ「西藤島郷土歴史くらぶ」のメンバーが、史跡「祇王祇女屋敷跡」「西藤観音堂」「郡(こおり)の首塚」「小黒丸城址」の解説をする。毎年繰り返してその解説を聞くことにより、知識として残る内容も多い。三世代家族で参加したり、社会体育のクラブで参加したりして、老若男女が集える大きな行事となっている。

4 次世代を担う青少年を育てる活動

(1) ちまきづくり体験 ～小学3年生を対象に～

毎年6月頃に、地区の社会福祉協議会が中心になり、お年寄りや福祉委員、ボランティアの人たちが、小学生にちまきづくり方を教えながら交流する機会を設けている。



「こうやって葉っぱを包むんだよ」

近くの山林で笹の葉を刈り取る作業に始まり、その葉を洗ったり、材料を揃えたりして、地区民が事前に何日もかけて準備をする。

当日は、ちまきづくりをした後、出来上がったばかりの美味しいちまきを一緒に味わう。蒸している間には、小学生が感謝の気持ちを込めて、学習発表をする時間もあり、地区民と児童とがふれ合えるひとときである。

(2) 真夏の「成人のつどい」

～20歳の青年を対象に～

本地区では、お盆の時期に合わせて成人式を行っている。「夢プラン西藤島」が中心となって取り組み地区内の若者が集うきっかけづくりになるように企画・運営を工夫している。今までは西藤島小学校卒業生を中心とした同窓会形式であったが、2～3年前から、20歳を迎える地区民にも呼びかけて参加を募っている。郷里を離れて県外で生活している青年や本地区へ引っ越してきた青年も含めて参加できる集いである。実行委員は新成人が務め、「成人」としての自覚を持ち、地区を愛する心を育てるとともに、地区の担

い手として活動していけるよう、この機会を利用して大人がサポートしている。

第1部の儀式に続き、第2部

では、地区の人たちから手づくり料理がふるまわれ、楽しい集いが繰り広げられる。若者たちは、思い出話にいつまでも花を咲かせている。



5 終わりに

将来のリーダー育成を見据えて、当地区では中学生との交流も進めている。例年、区民体育祭では各種競技の補助をはじめ、記録係や競技の案内などを行っている。また、文化祭では、吹奏楽部の演奏を通じて地区住民との交流を行っている。他の行事の中で、どのようなことができるかをみんなで考えていきたい。

中学生との打ち合わせは、土曜日か日曜日にしかできず、時間的な制約があるので実施することが難しいが調整しながら行っていく予定である。

今後はさらに一歩進めて、地区の五大事業等に関して、青年層に企画の段階から参画してもらおうと考えている。若い人たちの発想を生かした取組を大いに期待している。このような運営を毎年繰り返していくことにより、さらに活性化された事業、時代にマッチした事業が展開されるものと思われる。また、若い世代の地区行事への参加も自然に多くなっていくと考える。来年度に向けて、その取組を計画しているところである。

「にやかし」とは、「にぎやか」という意味の福井弁「にぎやかしい」が語源であると聞いている。この言葉が象徴しているように、会話がはずみ、老若男女が住みやすいまちづくりを目指して、今後も努力していきたい。

「合同協議会」は珍しい組織ですが、それが地域を支える機動力となっているように思います。地区民の思いと公民館活動がうまく融合されて各行事に繋がり、住民同士の結びつきを強めていることが素晴らしいと思います。また、次世代の育成と支援に多くの大人が関わり、若者を地域の一員として自然な形で行事に参画させている様子が見られます。今後も温かく見守ってほしいと願っています。